

# 「消費生活に関する県政モニターアンケート調査」結果

## I 調査の目的

県民の消費生活に係る意識や実態を把握し、施策の効果を検証するとともに、県民ニーズや地域の実情に応じて、今後の施策をさらに効果的なものとするため、アンケート調査を実施しました。

## II 調査項目

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 あなた自身のことについて     | 2 消費者問題への関心について  |
| 3 消費者問題関連の情報入手について | 4 消費者問題を学ぶ機会について |
| 5 消費者トラブルについて      | 6 行政相談窓口について     |
| 7 食の安全・安心について      |                  |

## III 調査方法

実施時期：令和2年6月

調査対象：県政モニター

調査方法：郵送またはインターネット

対象数：413名（郵送224名、インターネット189名）

回答数：361名（郵送207名、インターネット154名）

回答率：87.6%（郵送92.8%、インターネット81.5%）

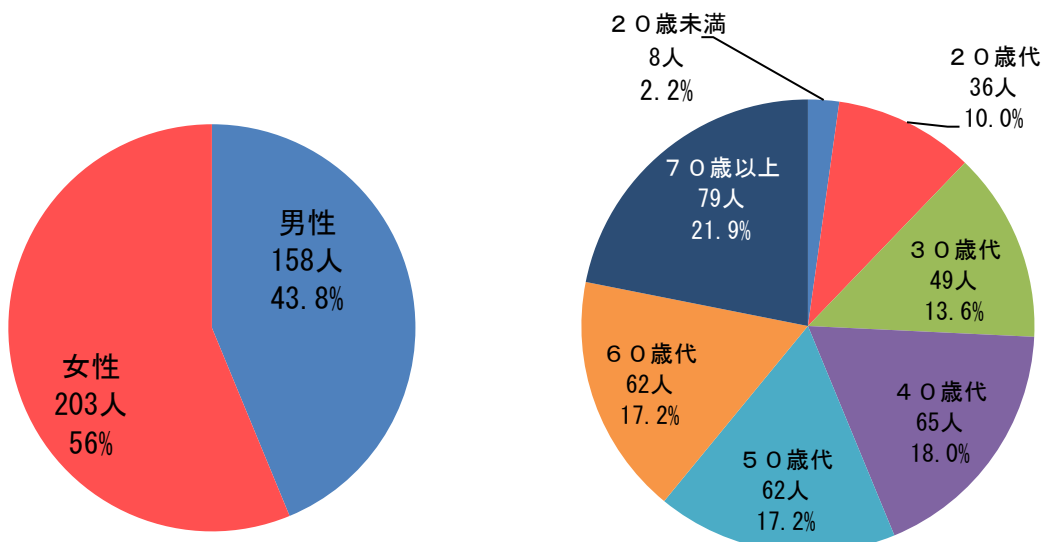
※回答結果は、百分率(%)で算出し、小数第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100%にならない場合があります。

※無回答者の数は、回答比率から除きます。

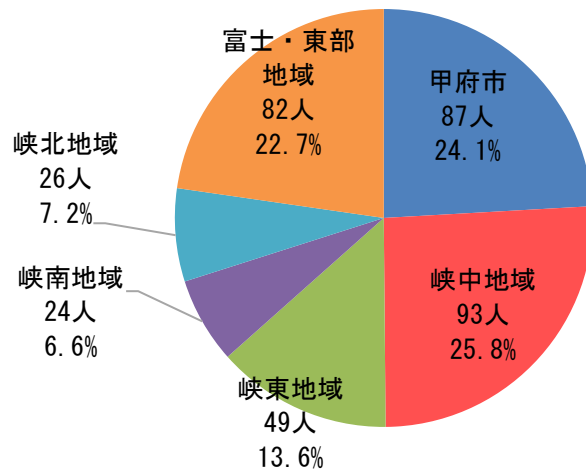
### (1) あなた自身のことについて

【問1】あなたの性別を教えてください。

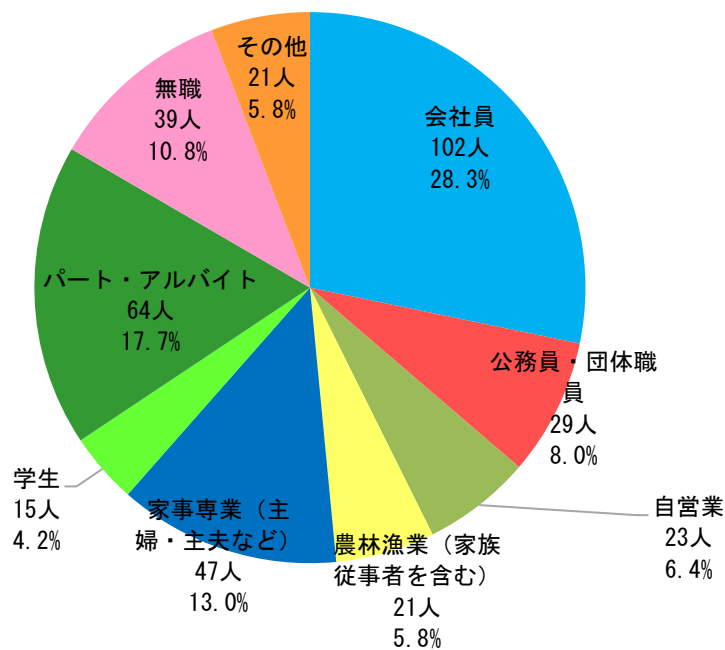
【問2】あなたの年齢を教えてください。



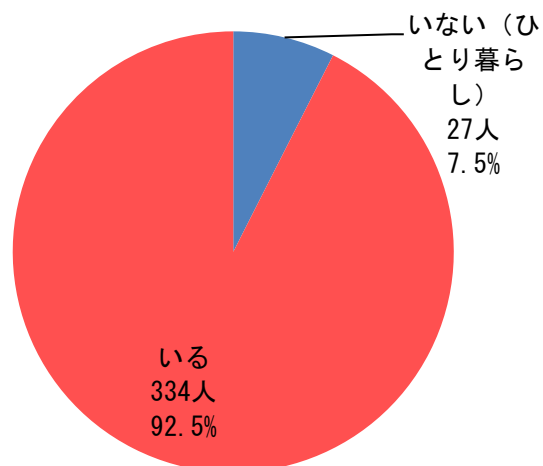
【問3】住んでいる地域を教えてください。



【問4】あなたの職業を教えてください。



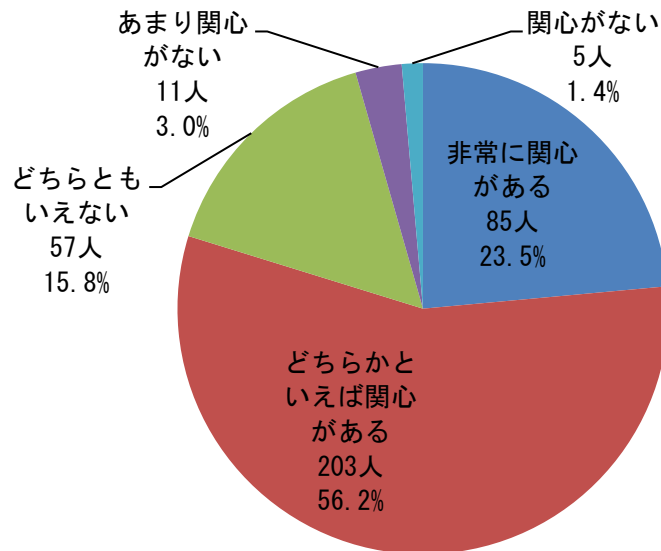
【問5】同居している家族はいますか。



(2) 消費者問題への関心について

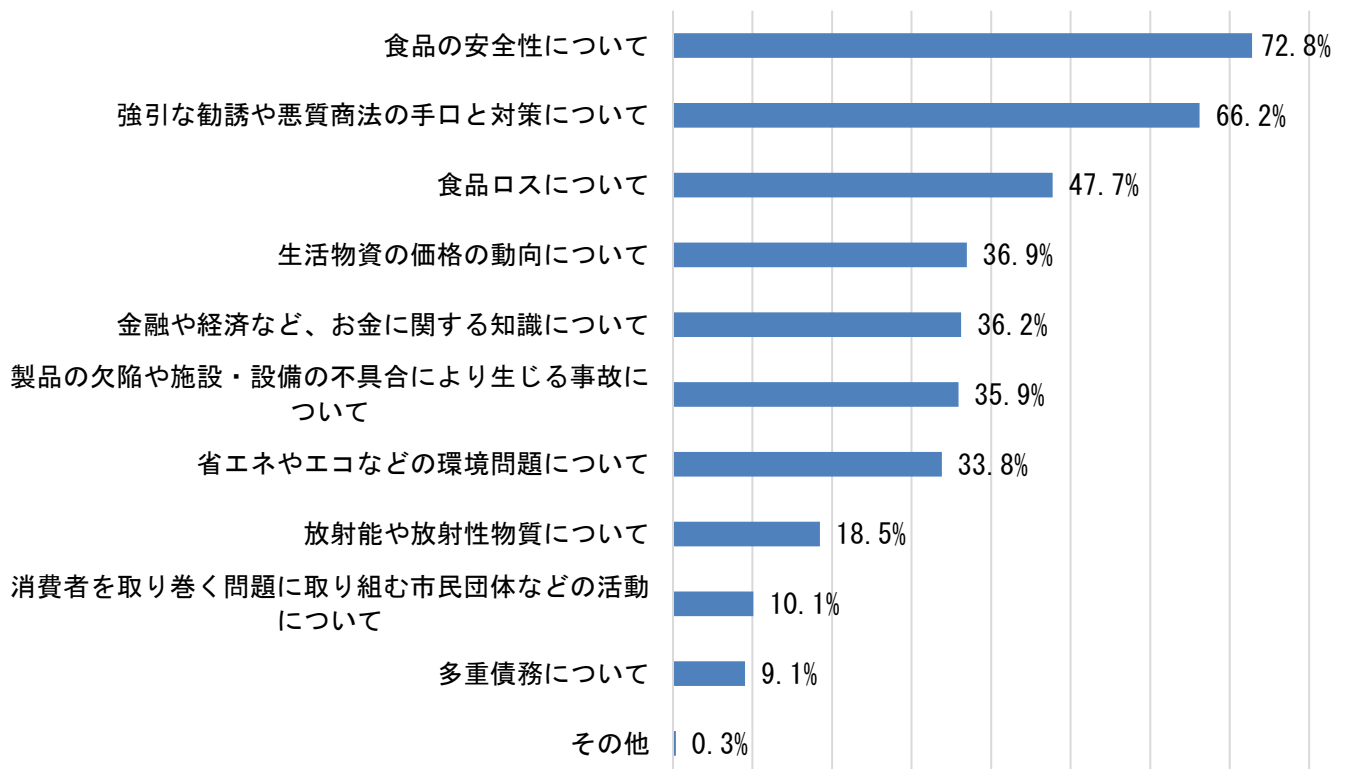
【問6】消費者問題（悪質商法・製品事故・食品偽装など）について関心がありますか。

「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた人は全体の79.7%。  
「あまり関心がない」、「関心がない」と答えた人は全体の18.8%。



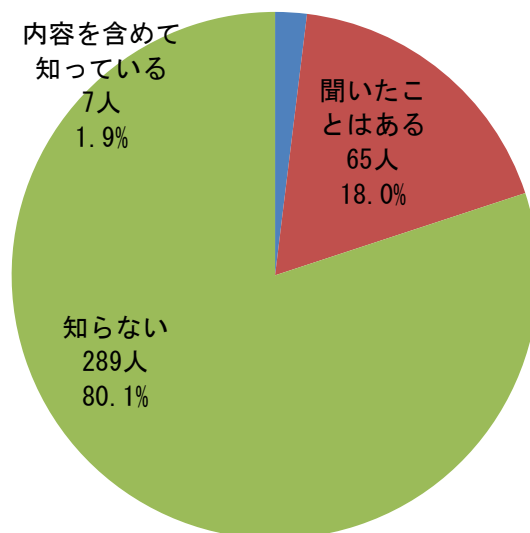
【問7】次のうち関心のあるものはどれですか。（複数回答可）

問6で「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた人に聞きました。（回答者287名／対象者288名）

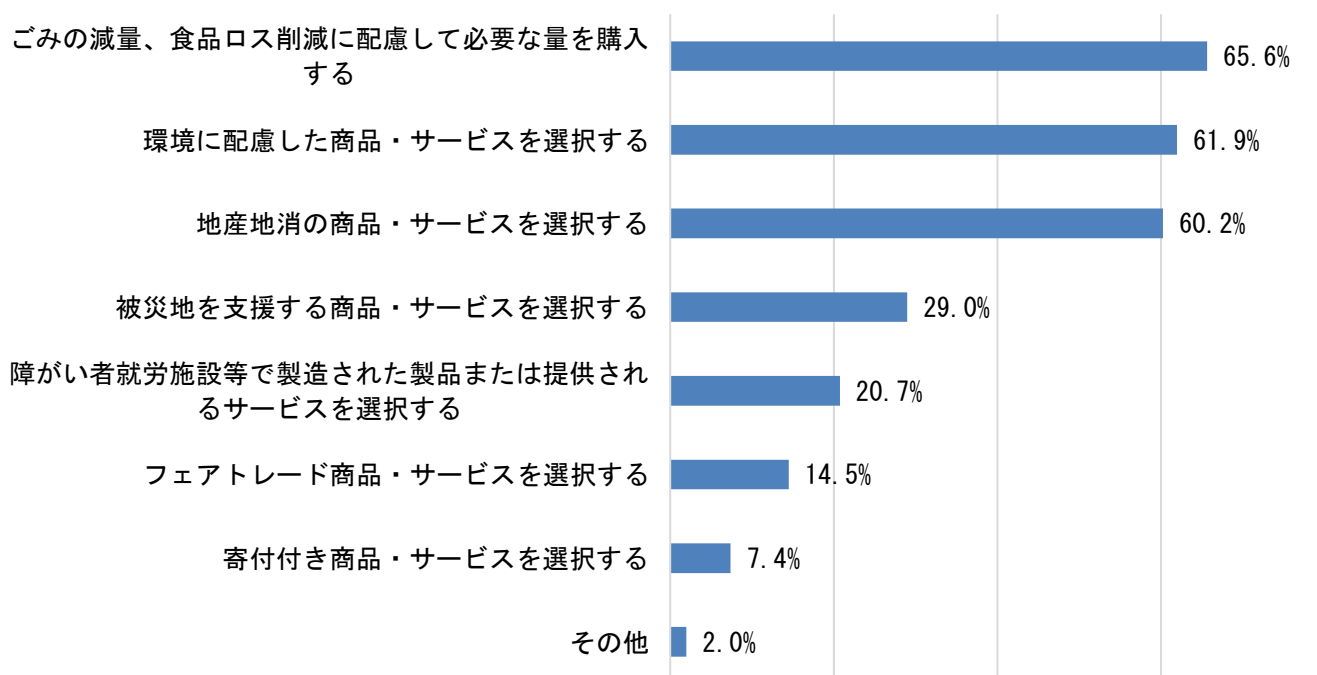


【問8】新しい消費行動である「エシカル消費」又は「倫理的消費」という言葉をご存じですか。

「内容を含めて知っている」、「聞いたことはある」と答えた人は全体の19.9%。  
「知らない」と答えた人は全体の80.1%。

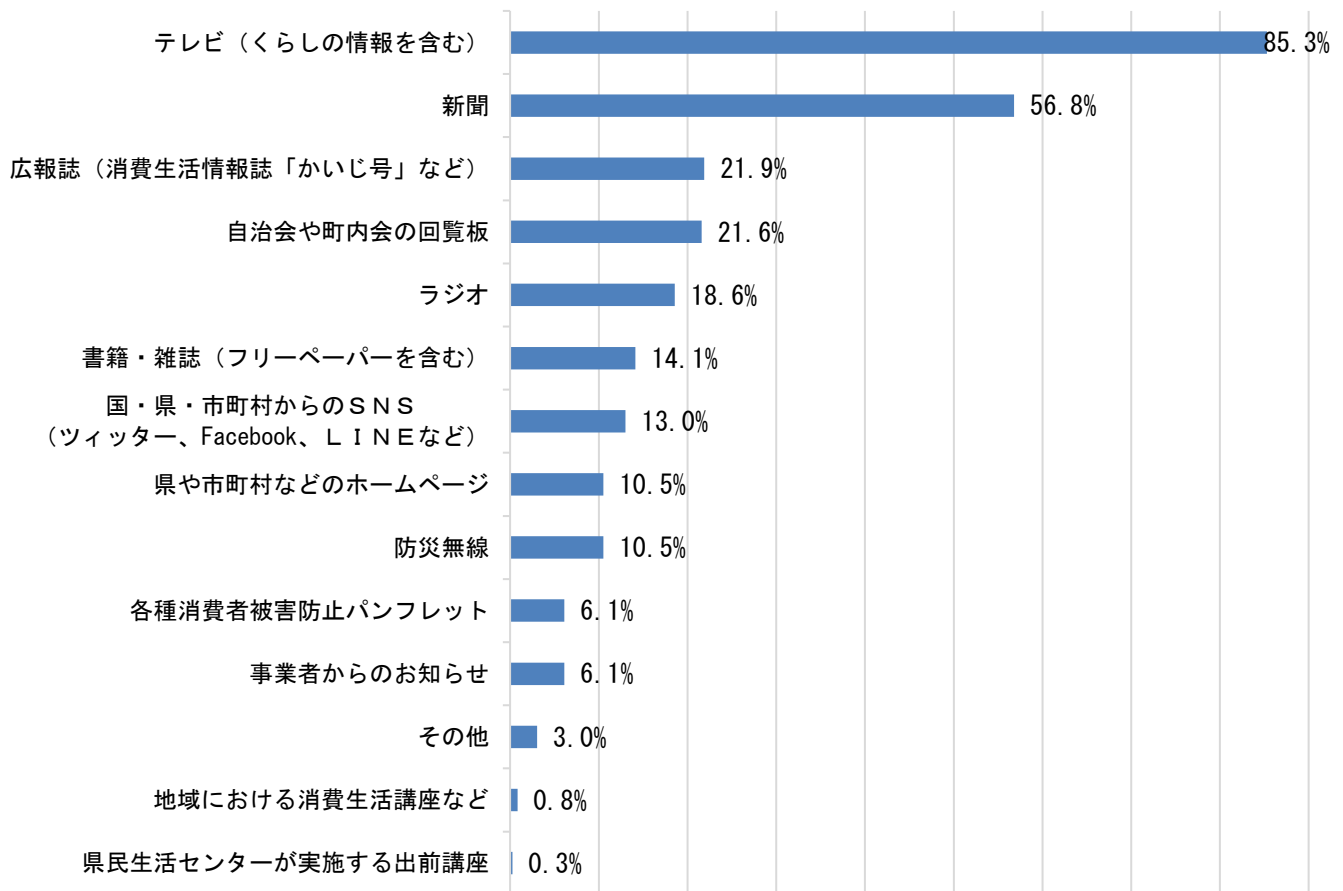


【問9】既に取り組んでいる又は今後取り組んでみたい「エシカル消費（倫理的消費）」の内容はどれですか。（複数回答可）

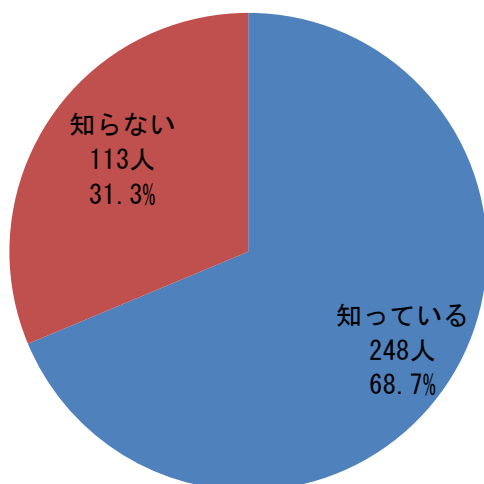


(3) 消費者問題関連の情報入手について

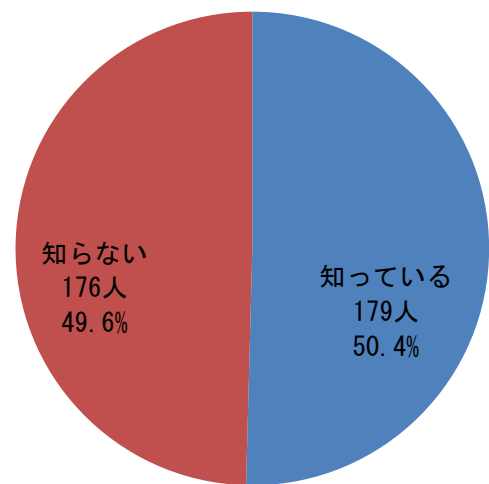
【問10】あなたは、消費者問題に関する情報を何から入手していますか。（複数回答可）



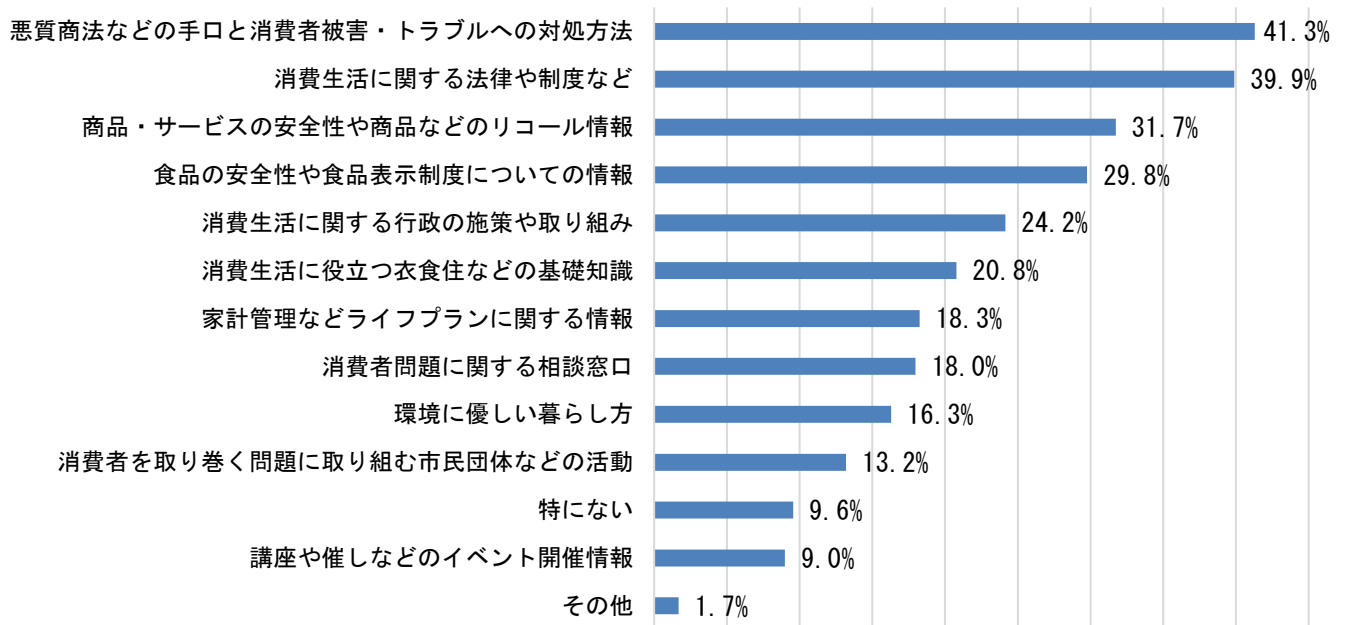
【問11】あなたは、消費生活情報を広報するテレビスポット放送「くらしの情報」をご存じですか。



【問12】あなたは、県が発行する消費生活情報紙「かいじ号」をご存じですか。

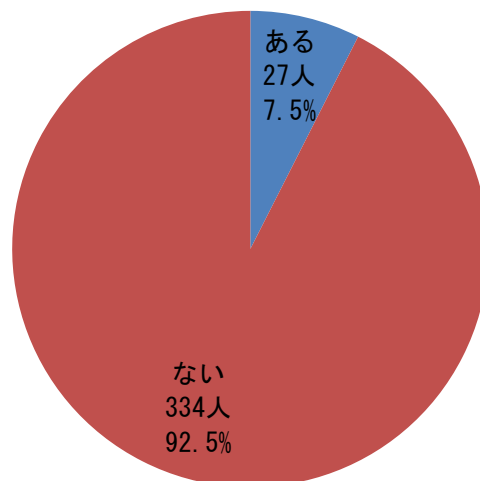


【問13】あなたにとって、消費生活に関する情報として特に不足していると思われるものはどれですか。（複数回答可）



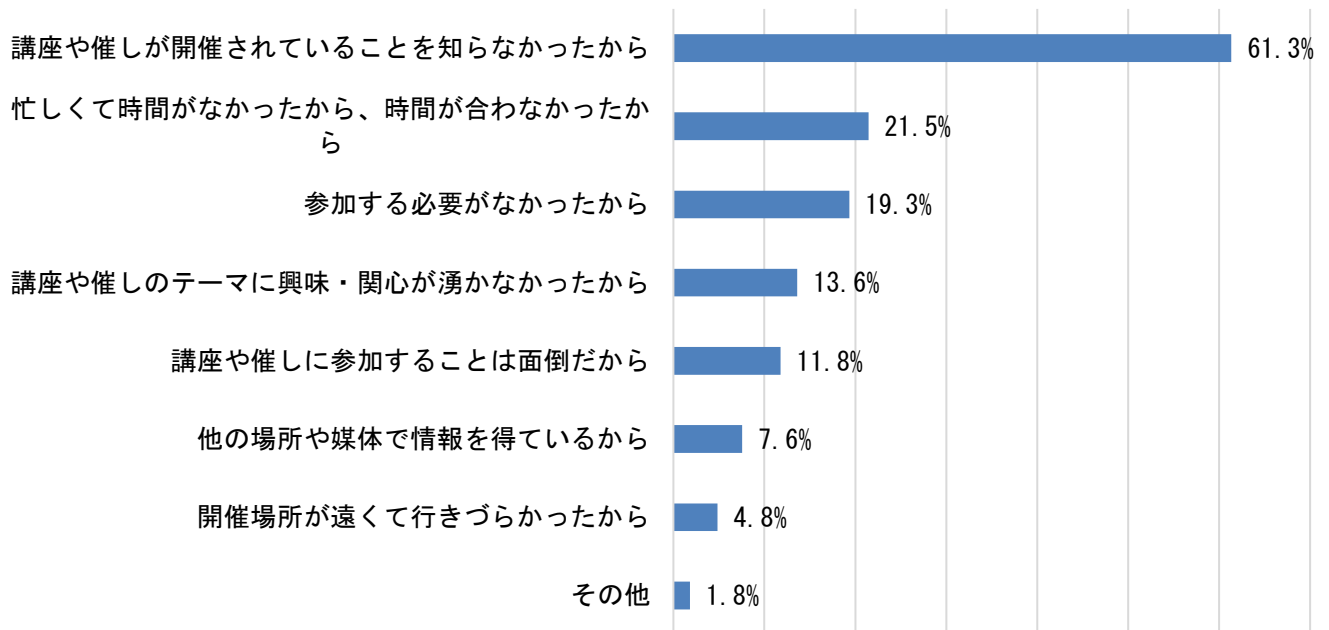
（４）消費者問題を学ぶ機会について

【問14】悪質商法・製品事故・食品偽装などの消費生活に関わる講座や催しに参加したことがありますか。

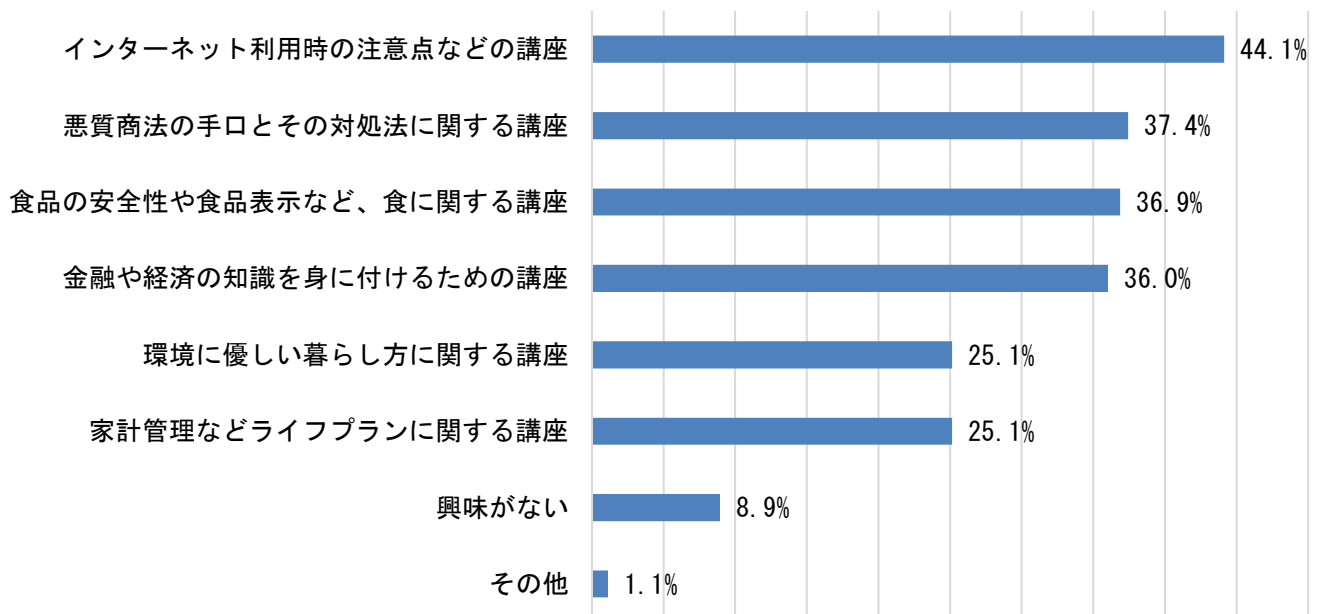


【問15】 参加したことがないのはなぜですか。（複数回答可）

問14で「ない」と答えた人に聞きました。（回答者331名／対象者334名）



【問16】 消費生活のどのような講座が役に立つと思いますか。（複数回答可）

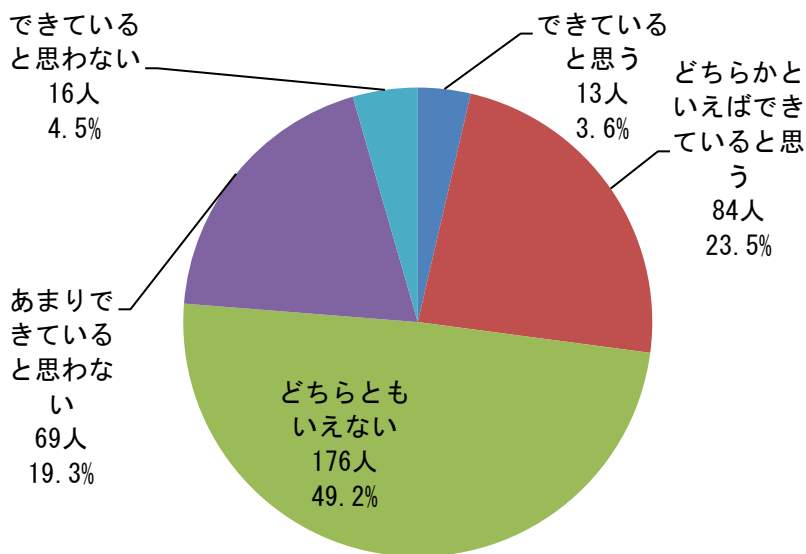


(5) 消費者トラブルについて

【問17】あなたは、商品やサービスについて被害を受けた場合に、社会的なシステムとして被害者救済の仕組みができていますか。

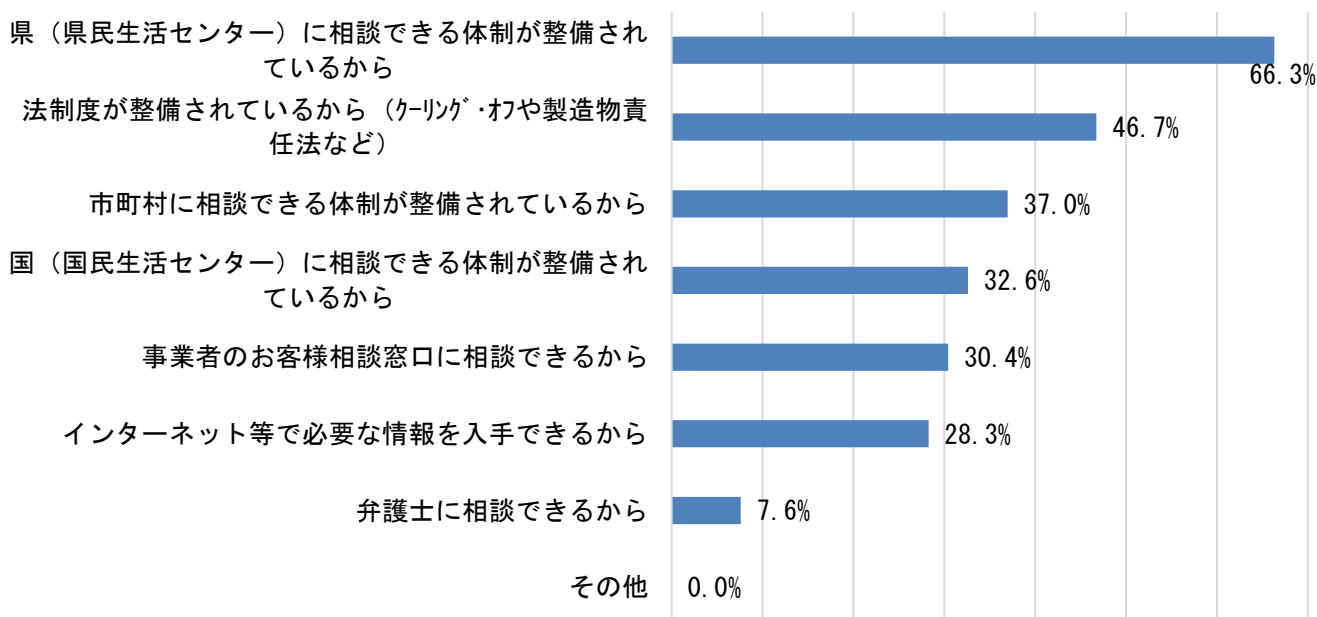
「できていると思う」、「どちらかといえばできていると思う」と答えた人は全体の27.1%。

「できていると思わない」、「あまりできていると思わない」と答えた人は全体の23.8%。



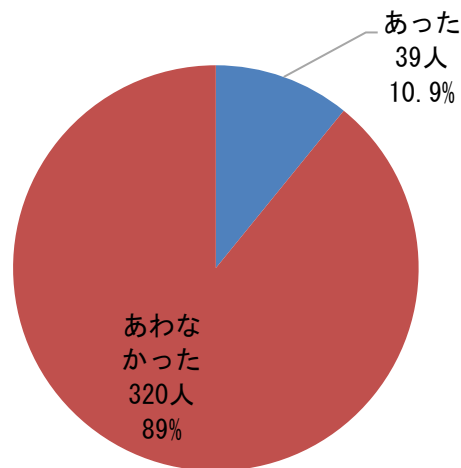
【問18】それはどのような理由からですか。（複数回答可）

問17で「できていると思う」、「どちらかといえばできていると思う」と答えた人に聞きました。（回答者92名／対象者97名）



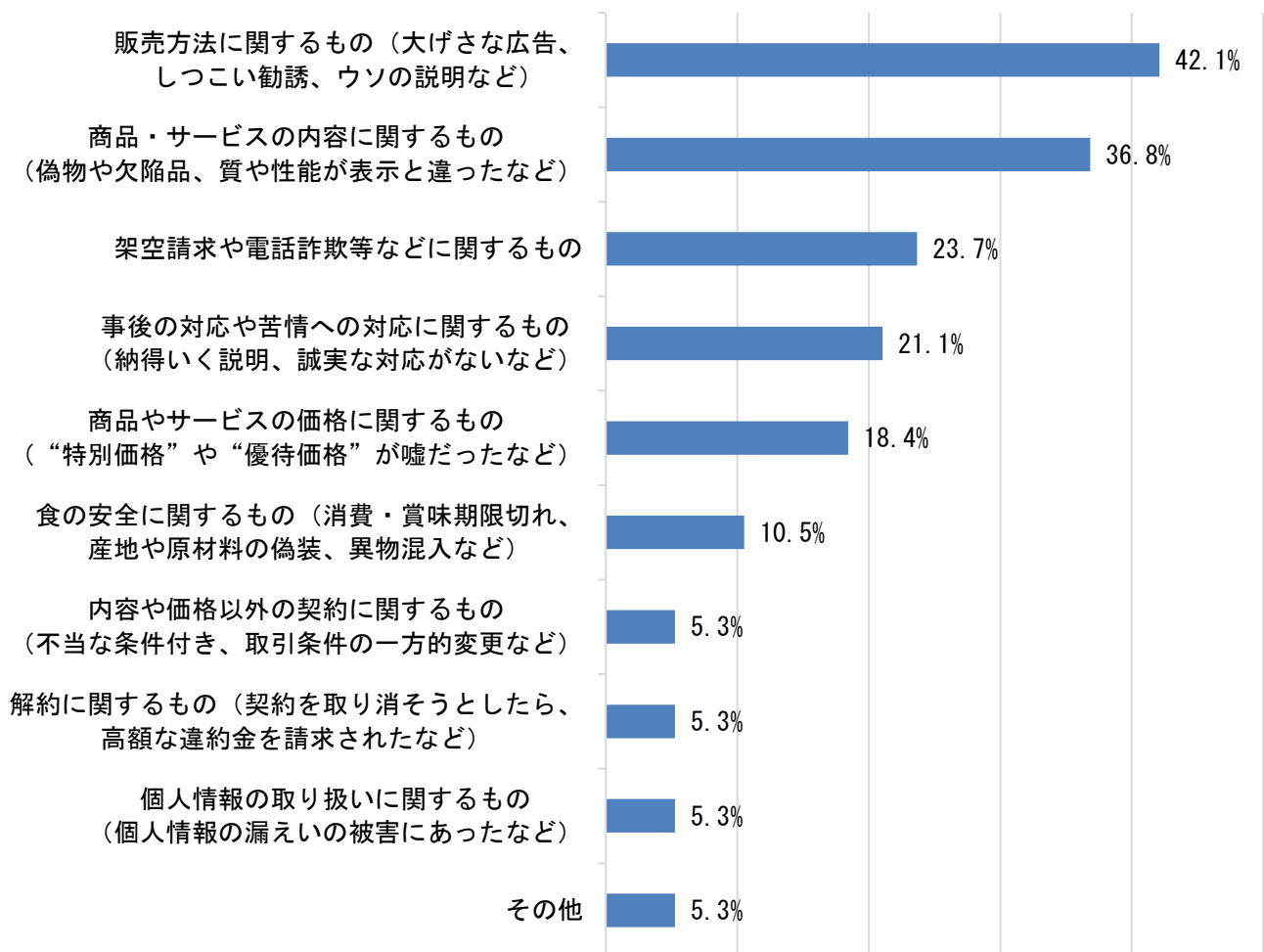


【問19】 過去に、あなたやご家族が消費生活上のトラブルにあったことがありますか。



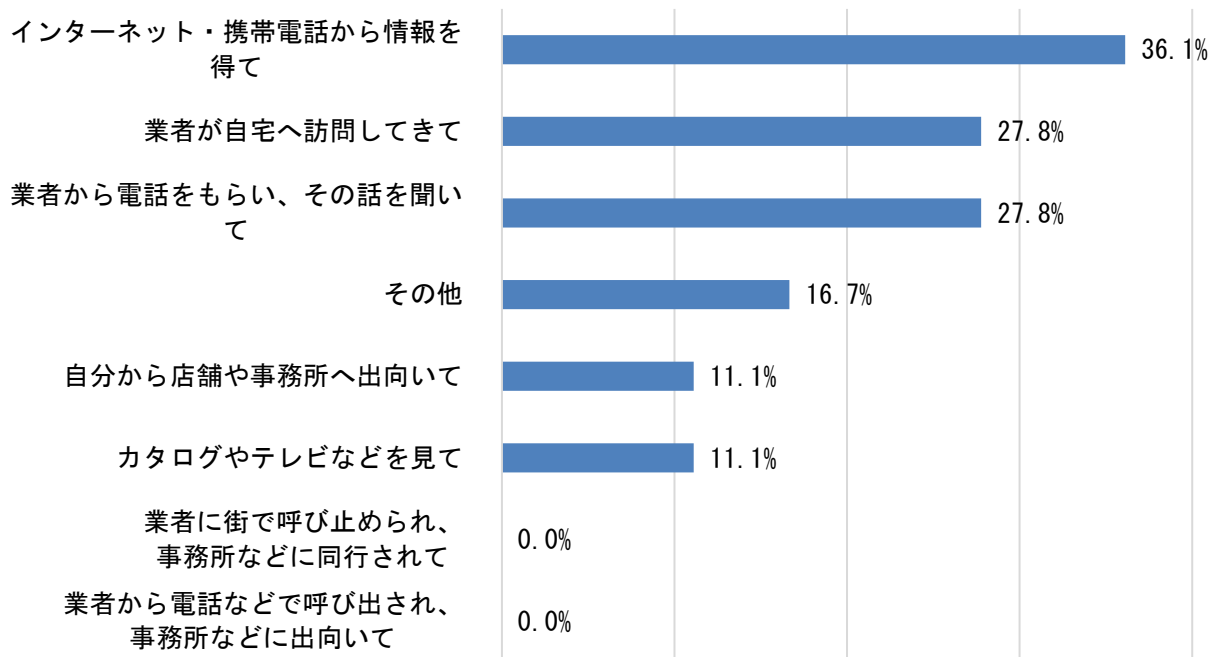
【問20】 それはどのようなトラブルでしたか。（複数回答可）

問19で「あった」と答えた人に聞きました。（回答者38名／対象者39名）



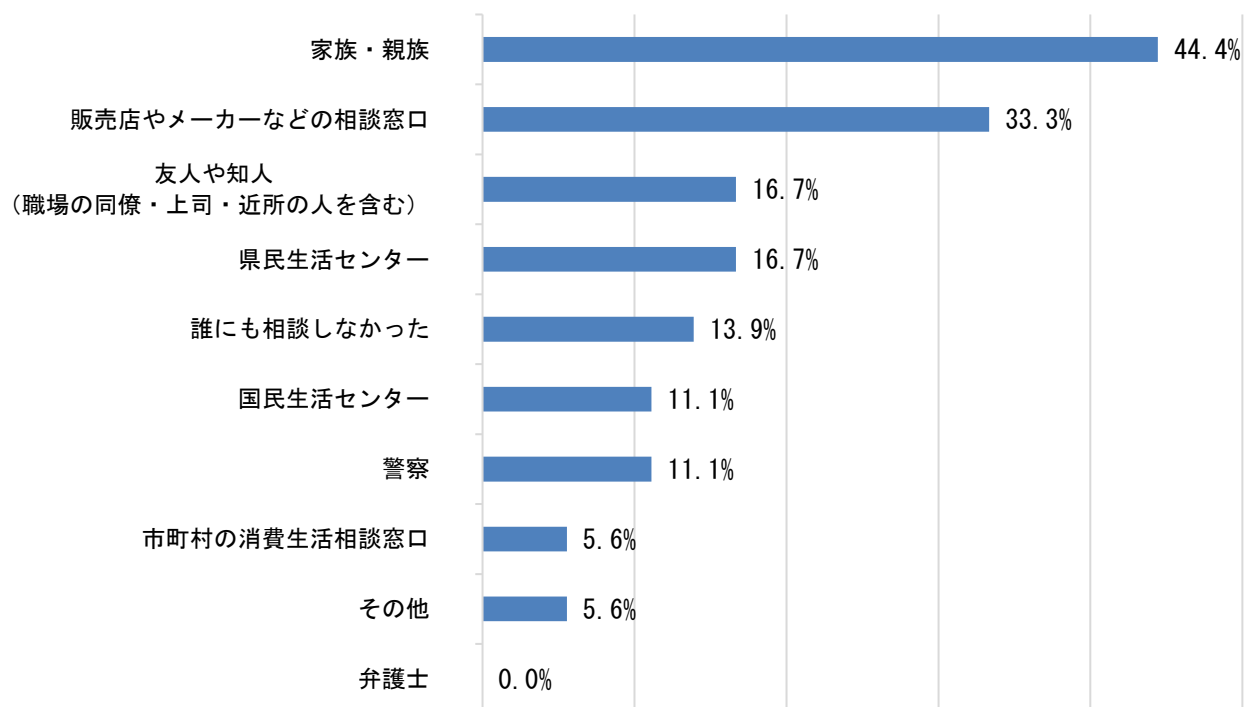
【問21】トラブルにあった契約のきっかけは何でしたか。（複数回答可）

問19で「あった」と答えた人に聞きました。（回答者36名／対象者39名）

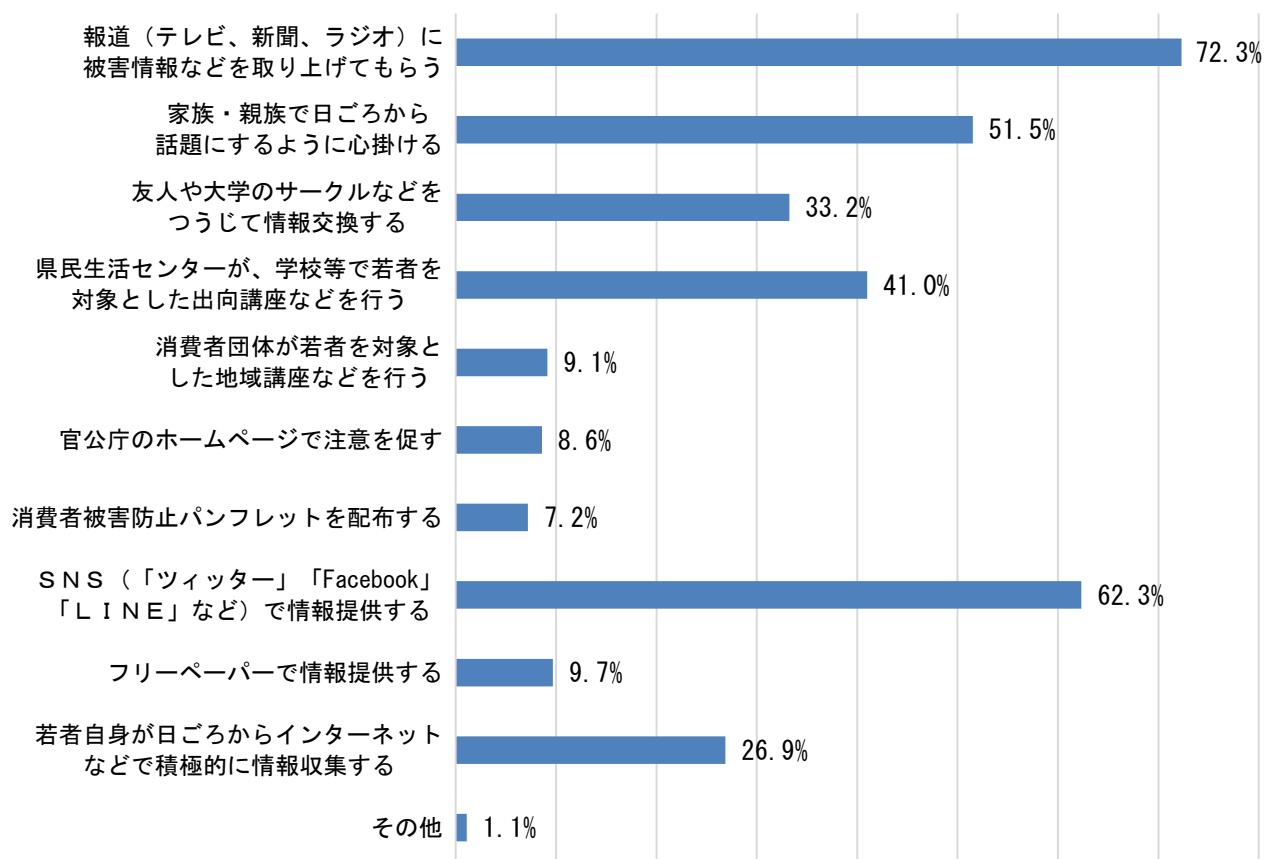


【問22】トラブルにあった際、どこに（誰に）相談しましたか。（複数回答可）

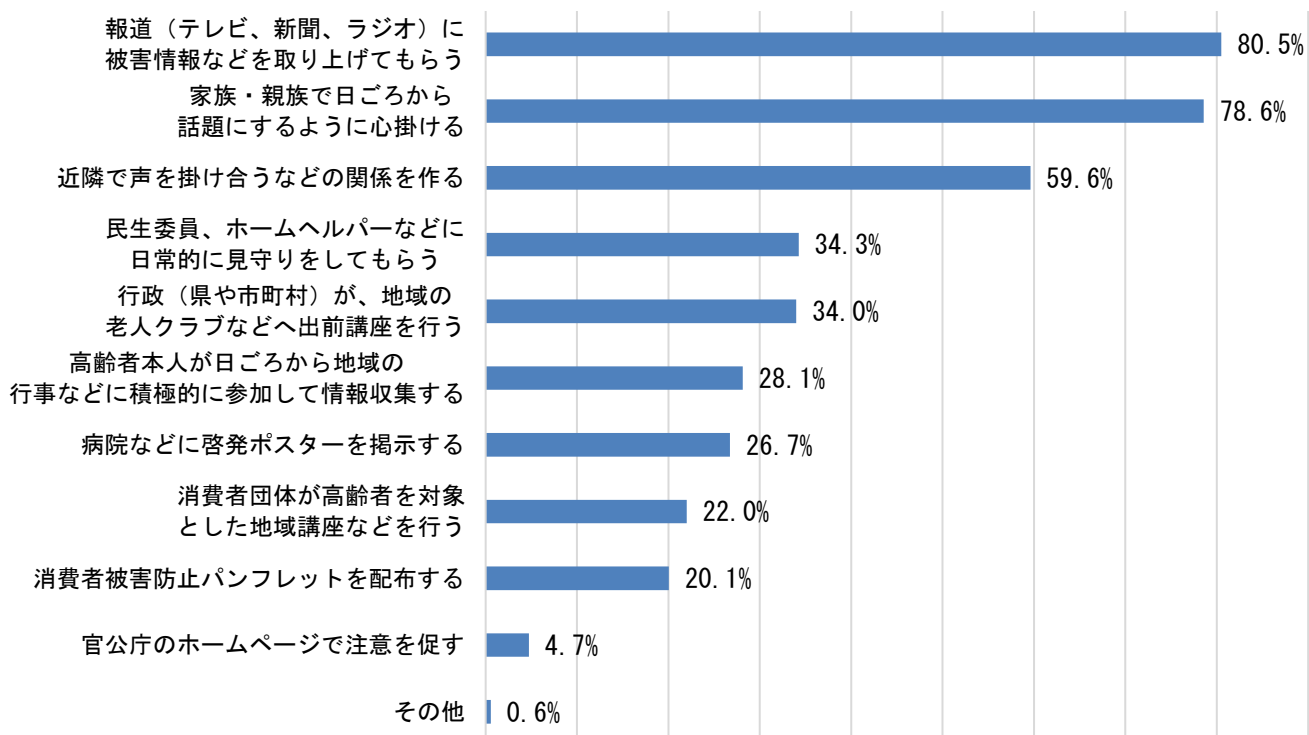
問19で「あった」と答えた人に聞きました。（回答者36名／対象者39名）



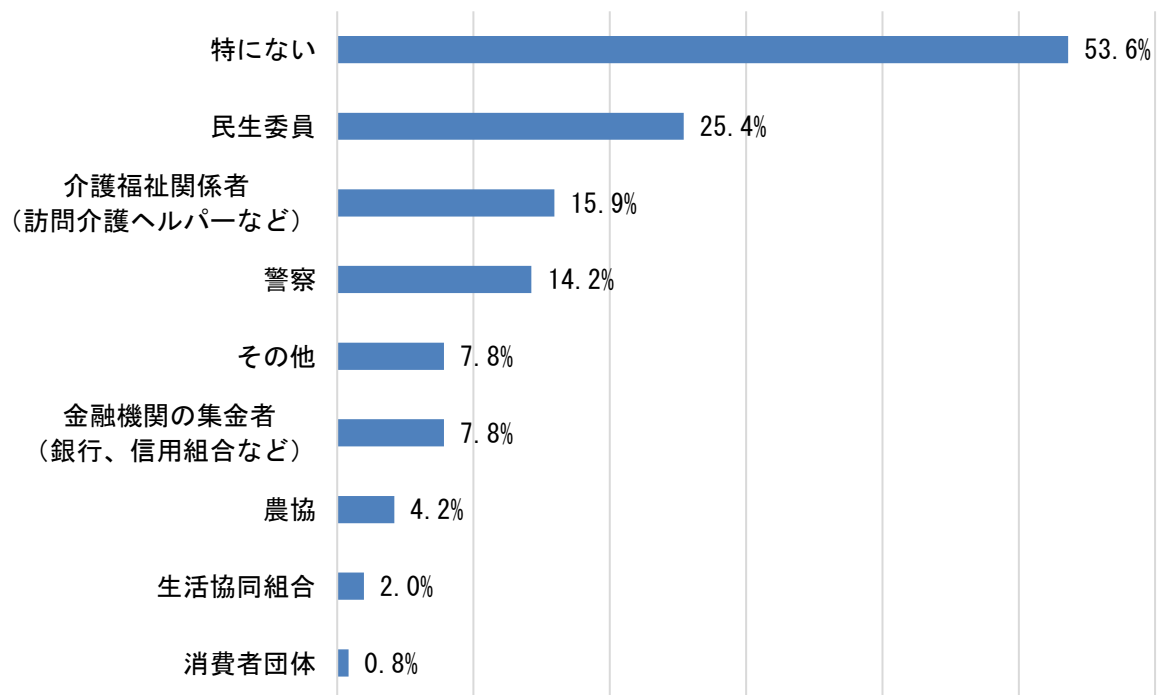
【問23】「若者」が消費者被害にあわないようにするための対策として、有効と考えられるものはどれですか。（複数回答可）



【問24】「高齢者」が消費者被害にあわないようにするための対策として、有効と考えられるものはどれですか。（複数回答可）

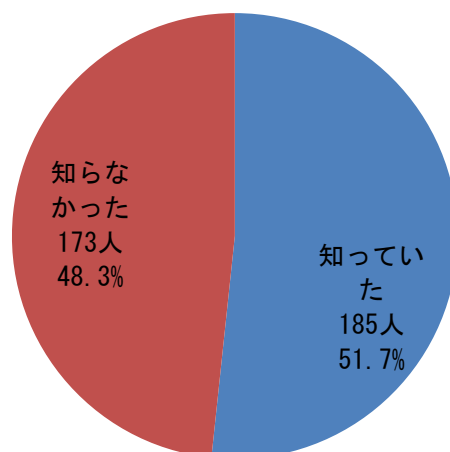


【問25】 あなたの身の回りで、消費者問題に関し、次の者等により高齢者への見守りが行われているものがありますか。（複数回答）



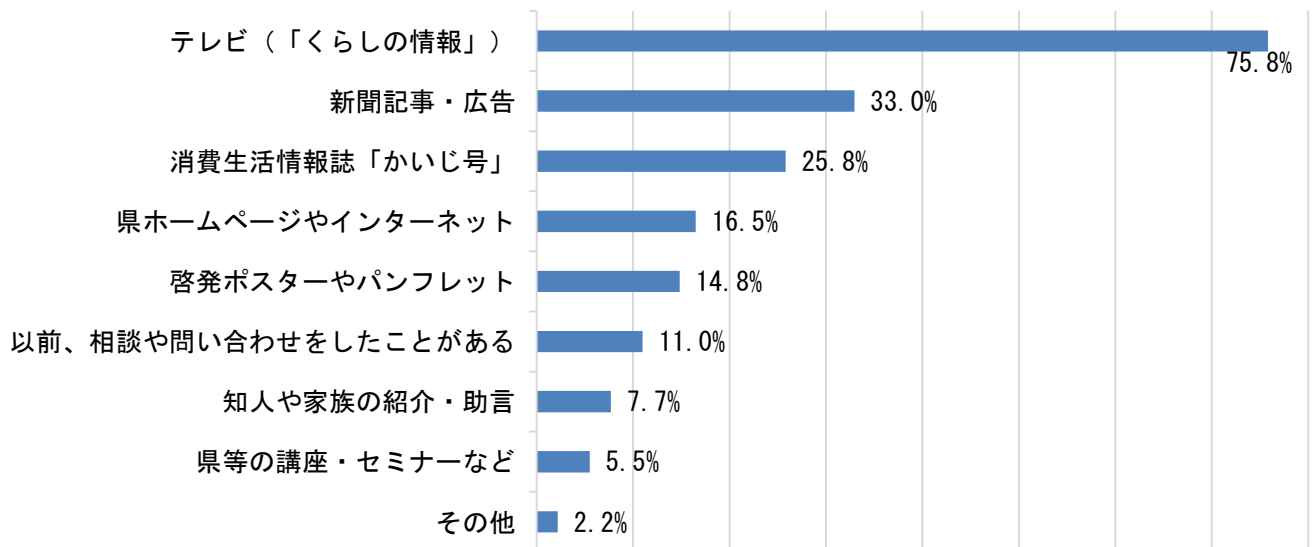
(6) 行政相談窓口について

【問26】 県民生活センターでは、消費者トラブルの解決に向けた消費者相談を実施していますが、ご存知でしたか。



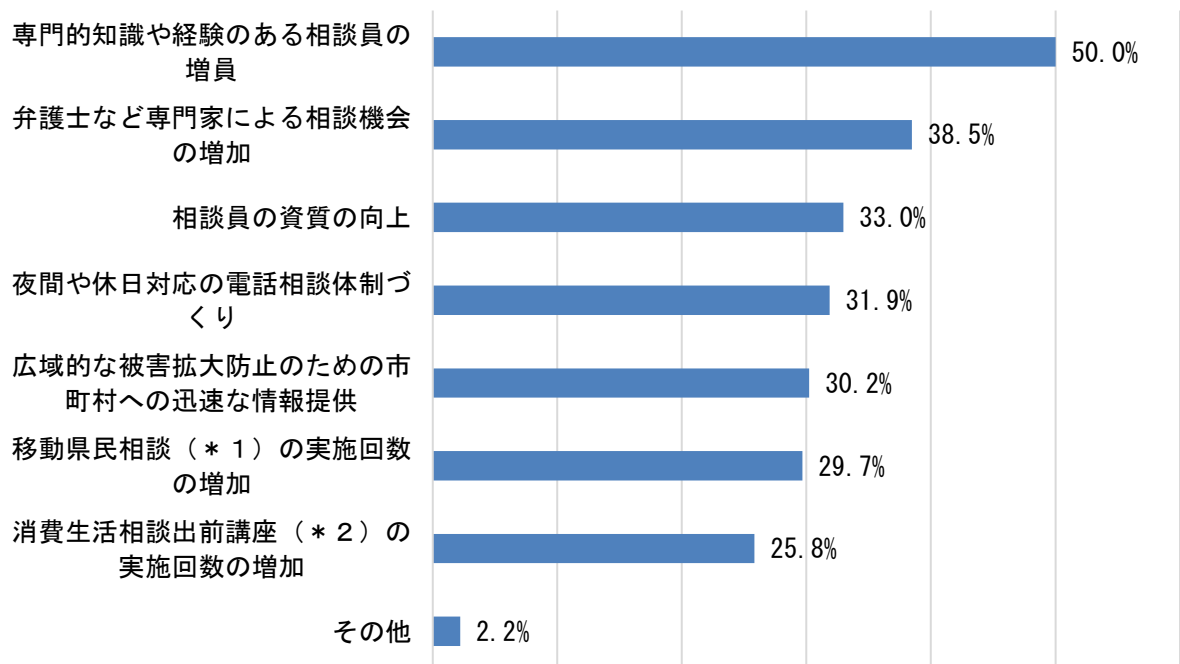
【問27】どのようにして知りましたか。（複数回答可）

問26で「知っていた」と答えた人に聞きました。（回答者182名／対象者185名）



【問28】県民生活センターの消費者相談サービスについて、どのようなことを望みますか。（複数回答可）

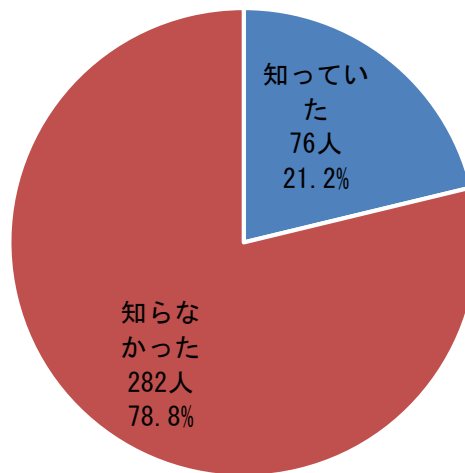
問26で「知っていた」と答えた人に聞きました。（回答者182名／対象者185名）



※1 「移動県民相談」……………県民生活センターの消費生活相談員が、地域県民センター等へ出向いて相談に応じるもの

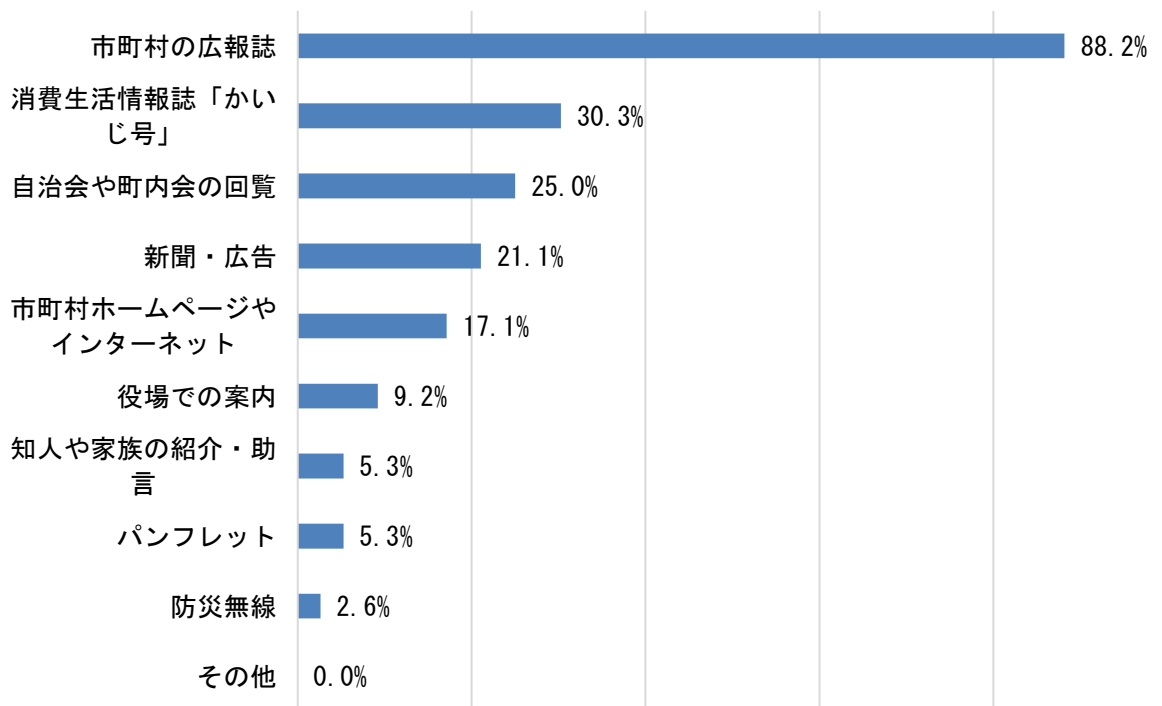
※2 「消費生活相談出前講座」…消費者トラブル未然防止等のため、地域やグループの学習会などに無料で講師を派遣するもの

【問29】 現在、あなたがお住まいの市町村役場で、悪質商法・製品事故などの消費生活相談窓口を設けていることをご存知でしたか



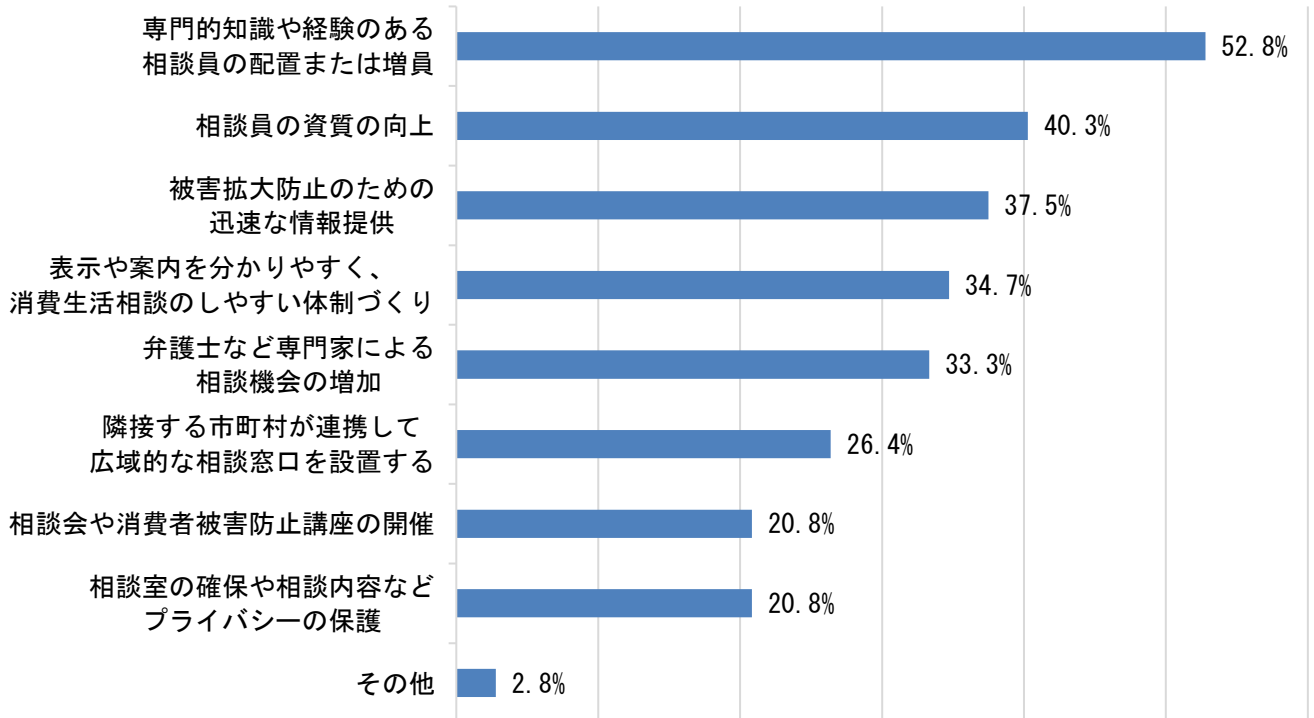
【問30】 どのようにして知りましたか。（複数回答可）

問29で「知っていた」と答えた人に聞きました。（回答者76名／対象者76名）



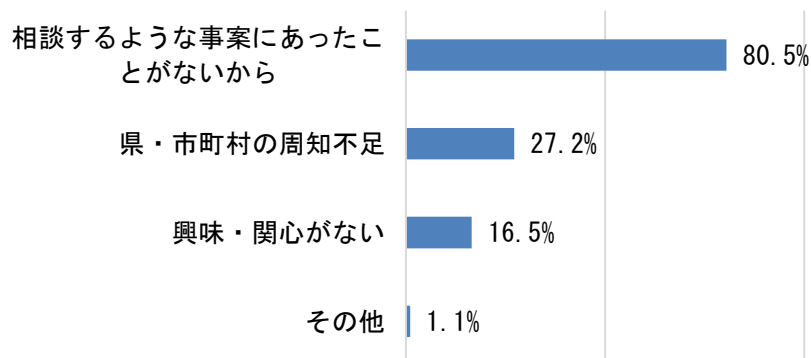
【問31】あなたのお住まいの市町村の消費生活相談窓口について、どのようなことを望みますか。  
 (複数回答可)

問29で「知っていた」と答えた人に聞きました。(回答者72名/対象者76名)

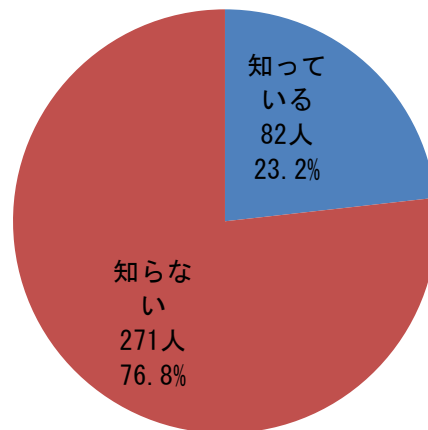


【問32】知らなかった理由は何と思いますか。(複数回答可)

問29で「知らなかった」と答えた人に聞きました。(回答者272名/対象者282名)



【問33】あなたは「消費者ホットライン188」をご存じですか。



【問34】消費者問題に対する取り組みの充実のために、ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

行政の力を利用又は相談する事。物流に恵まれすぎて何でも手に入りやすく消費してしまうが、本当に必要な物を必要なだけ手に入れることが遠のいてきたように思われます。消費と環境、便利さに流されてきましたが、生活の中でも必要な物の中身を選択していきたいです。まだまだ勉強が足りません。	(70歳以上・女性)
早くから子ども達が正しい知識を学び、そして健康寿命の延伸と人生100年をどのように生きていくのか。興味があります。	(70歳以上・男性)
困ったら消費者センターへ。みたいなのを子どもの教育(学校)で伝えていくと伝わりやすいのでは。	(30歳代・女性)
取締りを強化して欲しい。	(50歳代・男性)
インターネット利用の少ない年配者等への情報提供について工夫する。(冊子の配布等)	(50歳代・女性)
年齢が増してくると誰もが不安と孤立になります。近隣との情報交換、おしゃべりがトラブル防止に役立つと思います。現在私は地域でいきいきサロンを立ち上げ活動しています。そのような場で使える手軽で面白みがある講座があれば有効かと思えます。	(70歳以上・女性)
広報誌外情報伝達にタレントや有名人等の起用	(60歳代・男性)
もっとSNSで情報を広めて欲しい。	(20歳代・男性)
現在の世の中では物があふれている状態で何不自由なく生活できると思う。一方消費者自身が自己研鑽して各々判断力を高める努力が必要だと思います。	(70歳以上・男性)
被害をなくす事は不可能であるが、被害にあいにくいような法令を整備し、又救済措置をしっかりと整備する。	(40歳代・男性)
私にアンケートに答える材料が(知らないことが多い)少ない事に気づきました。	(60歳代・男性)
積極的な情報周知	(60歳代・男性)
警察に対しても県から悪質商法などの取締りの強化を要望していただきたい。	(50歳代・男性)
知らないことがたくさんあったので、周知が必要なのではないかと思いました。	(50歳代・女性)



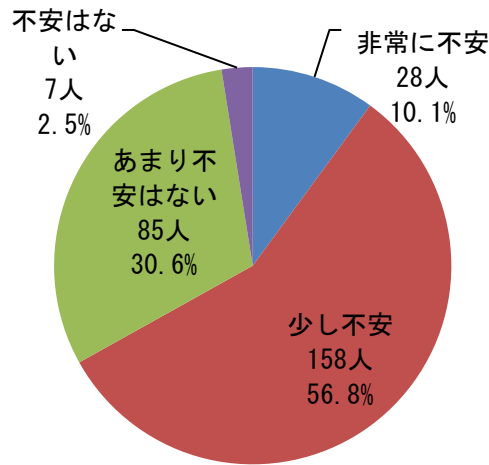
行政が行動していることや組織等かなり知らなかった。	(70歳以上・男性)
消費者問題に関する情報をもっと提供してほしい。SNSを利用して提供してくれると若者は情報を取り入れやすい。	(20歳代・女性)
今まで幸いにも消費トラブルにはあっていませんがもしもの時のためにも頭に入れておきたいと思います。	(60歳代・男性)
山梨県は高齢者が多いまた免許証返納などで買い物に苦労している人も多いと思う。ネット通販による購買やキャッシュレス決済も周りに情報を提供してくれる人がいない場合、便利さと享受するにはハードルが高いと思われる。(スーパーでも現金で支払う人が多い)ハードルが低く情報が交換し合える環境づくりが必要だと思う。	(70歳以上・女性)
大人になってから取り組みを知ってもらうのではなく中学生ぐらいから活動を知ってもらうのが被害を少なくすると思います。老人には老人クラブ等へ出向くのもいいが総合病院や町の病院の待合室へパンフレットを置いておくのもいいと思います。	(40歳代・女性)
カード決済によるトラブル	(70歳以上・女性)
CATVの高額と太陽光発電(全家庭屋根と蓄電器)電気代がたかい。ライフラインなのに。なぜ甲府はカーナビで1.3.4.6しか映らないのだろう。リニアも通るのに。山の中じゃケーブルでもわかるが	(50歳代・男性)
「消費者ホットライン188」はコロナ禍で外出自粛中、自宅で、ラジオで聞きました。時々まぎらわしい書類が郵送されたりするので参考になりました。	(70歳以上・女性)
以前にあった事例を紹介、解決策を公開してほしい	(50歳代・女性)
地域の放送は良く流れ、悪徳商法の事はわかるが県民生活センター、市で悪質商法、製品事故などの消費生活相談窓口、消費者ホットライン、188など知らないことがほとんど。市でそういったパンフレットなどあれば郵送でよいので配布すべきだと思う。	(50歳代・男性)
今まで相談するような事案にあったことがないのでテレビで県民生活センター、くらしの情報とか耳には入っているが他人事になってしまっている。	(60歳代・女性)
悪徳商法や詐欺など市の無線放送ですでに情報を提供してくれるのはとても良いと思う。 食品の安全について給食や市の取り組みについてもっと広報してくれるとよい。 市の関連の料理教室などで特に関係なくても安全についての知識もレシピとともに提供してくれるとよいと思う。	(60歳代・女性)
青少年への消費者教育が大切だと考えます。その際、生産者と消費者がどのようにつながっていくのかを考えることが重要だと考えます。誠実な生産者を見抜き、その生産者が生産する物に適切な価値を見出し、ふさわしい対価を支払うことのできるような賢い消費者を育ててほしいと考えます。安価なものだけを求めるのではなくて。	(60歳代・男性)
携帯電話の契約内容がわかりづらい。説明不足 アプリの用途方法などの説明が欲しい。事前に説明がないために必要な設定などができなかつたり使うためにまた販売店に出向かなければならないことが起こったりすることがあって不親切だと思った。	(70歳以上・女性)
誰が聞いてもわかりやすく説明できる人材が、必要 県民が常に見聞きできる環境づくりをするべき 罪を犯した者への罰則。	(20歳代・男性)

食品ロスをなくすために、缶詰めは	(70歳以上・男性)
悪質業者に対する法規制の強化	(60歳代・男性)
特にない	(50歳代・女性)
商品の契約内容と実際の性能の違いなどの事例の展開等。	(50歳代・男性)
相談窓口の存在をより周知させてください。	(40歳代・女性)
消費ではないかもしれませんが、農協職員がとにかくタチが悪く、酷いことを何度もされました。そのことにも「常識の範疇」でお答えいただき、助かりました。広い知識をお持ちの方がますます増えて頂きたいです。	(40歳代・女性)
自分の身に消費者問題が発生しない限り制度自体を詳しく知ることはないと思う。しかし、問題が発生してからでは遅いと思うので、日頃から情報収集することが大事だと思った。	(30歳代・男性)
特にありません。	(60歳代・男性)
まず、消費者問題への理解が薄い理由として ・興味が無いために、情報を手に入れようと思わない。 ・消費者主体の対策では、だんだんと手を抜きおろそかになる。 この二点が挙げられると思います。そこで、周知させるためには各種CMやラジオなど「〇〇しながら」情報を得られる音声媒体が適しているかと思います。	(20歳代・男性)
次から次へと詐欺事件が後を絶たない。実際にあった事例を素早く広く知らせて啓蒙して欲しい。	(50歳代・女性)
毎日のように高齢者が「おれおれ詐欺」の被害に遭遇している。ニュース・報道を耳にするたびに、同情の念高じて不愉快にもなる。抜本的な防止策はないものかと思う。コロナウイルス感染防止の「緊急事態宣言」に匹敵するような対策でなければ効果ないのではないか。	(70歳以上・男性)
行政は土曜や日曜は受け付けたくないという気持ちが感じられる。	(60歳代・女性)
消費者ホットライン188のHP、PCを使い慣れている人では見やすいサイズで良いのですが、検索を不慣れなお年寄りには、少し難しいと思います。アクセス方法、開示方法について、お年寄りにも使い易い仕組み作りが必要だと思います。	(50歳代・男性)
家族や友達などと日頃から情報交換して、コミュニケーションをとるようにしたほうがいい。	(40歳代・女性)

(7) 食の安全・安心について

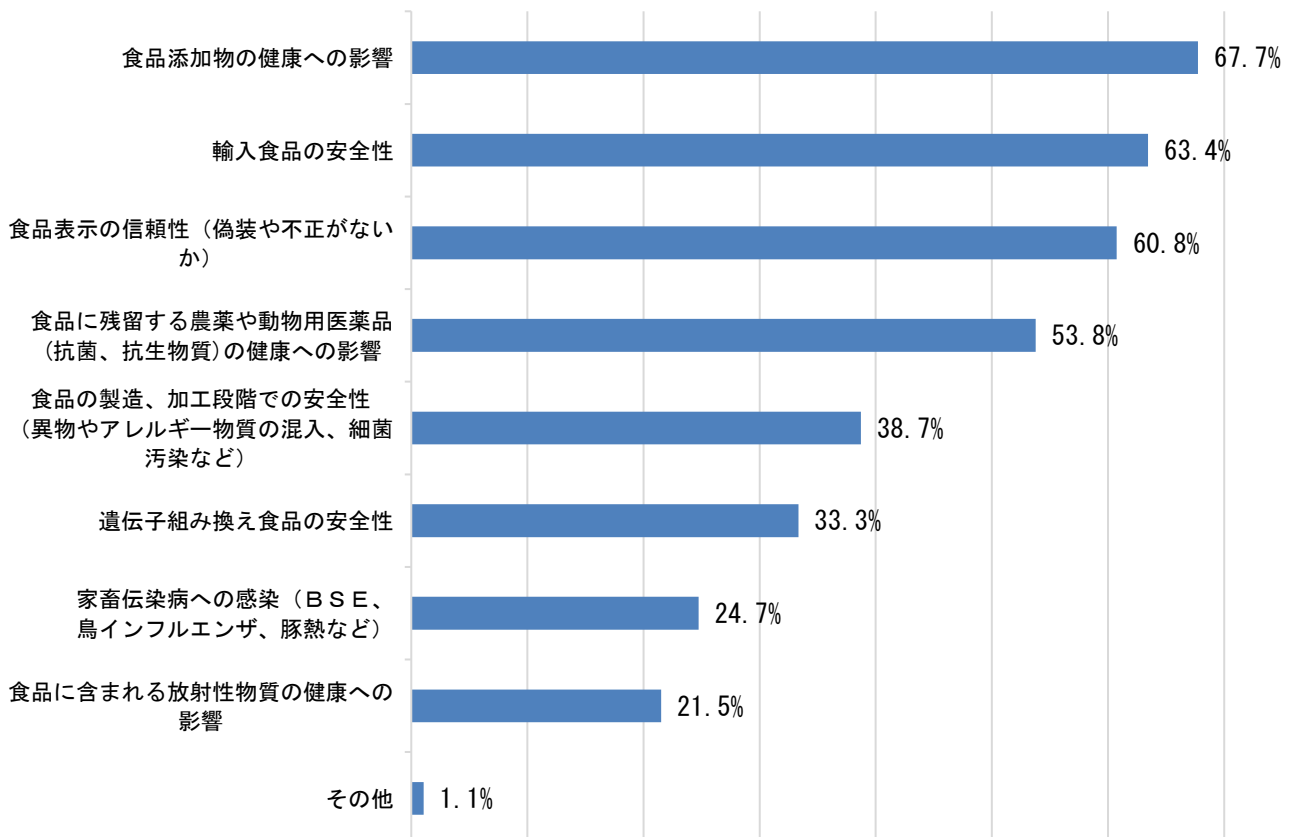
【問35】あなたは、食品の安全性についてどのように感じていますか。

「非常に不安」、「少し不安」と答えた人は全体の66.9%。  
 「あまり不安はない」、「不安はない」と答えた人は全体の33.1%。



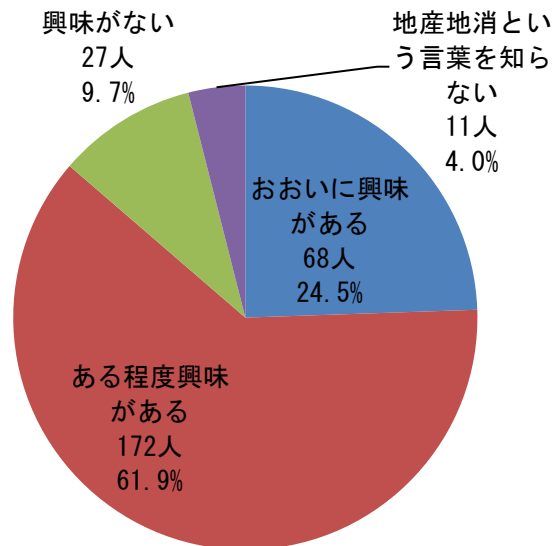
【問36】食の安全性について、特にどのような点に不安を感じていますか。（複数回答可）

問35で「非常に不安」、「少し不安」と答えた人に聞きました。  
 (回答者186名/対象者186名)



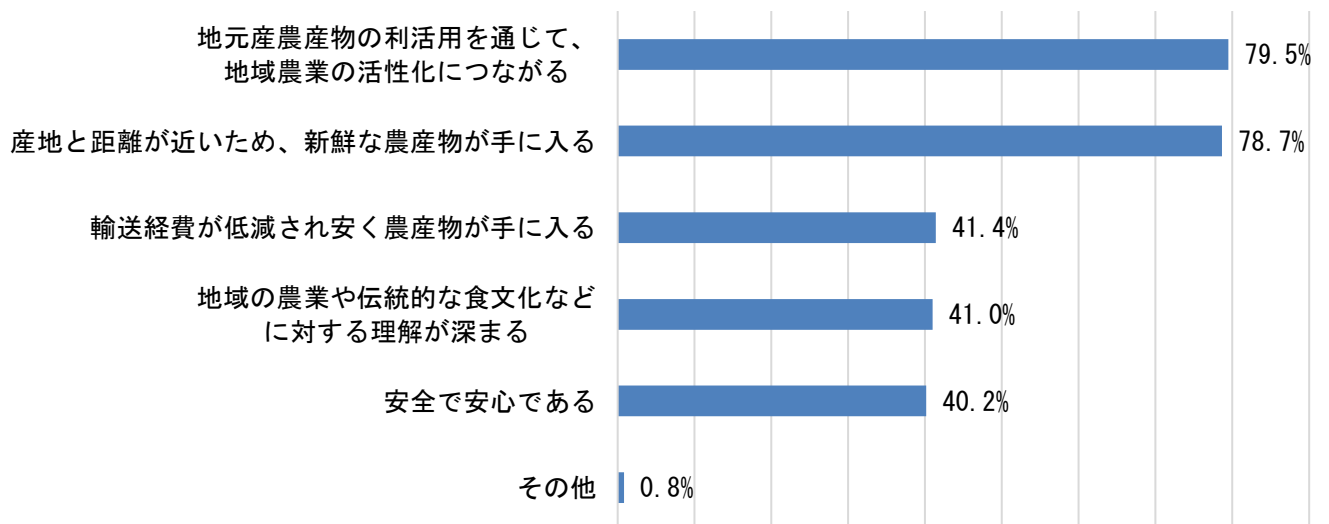
【問37】あなたは、地産地消の取組に興味がありますか。

「おおいに興味がある」、「ある程度興味がある」と答えた人は全体の86.4%。  
「興味がない」、「地産地消という言葉を知らない」と答えた人は全体の13.7%。

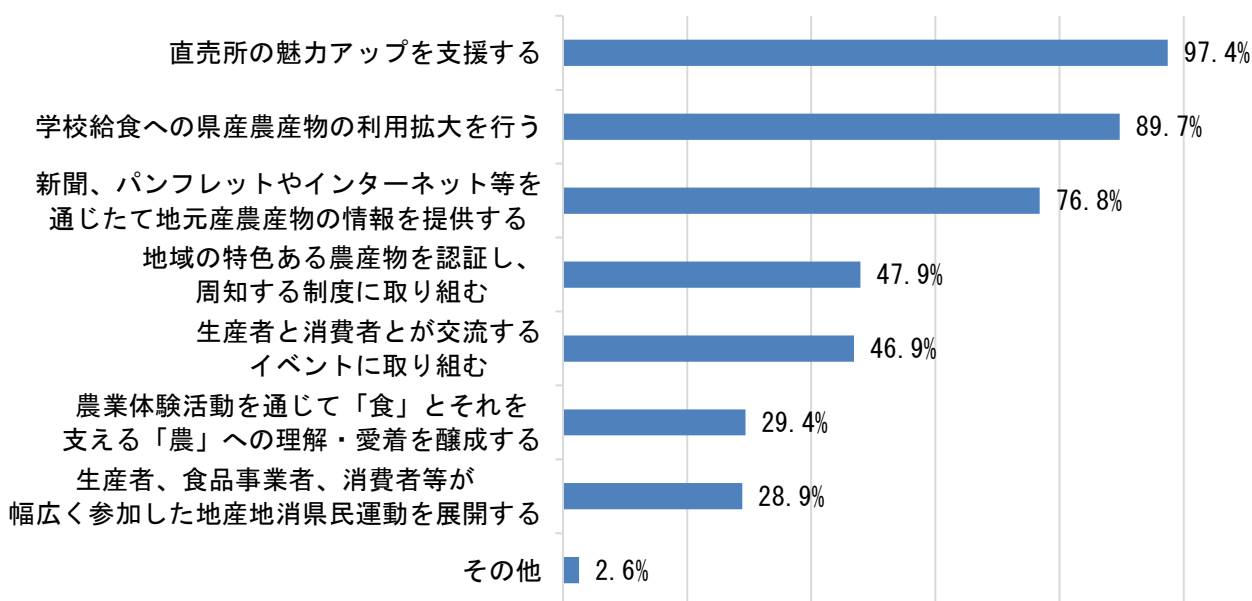


【問38】地産地消の魅力は何ですか。（複数回答可）。

問37で「おおいに興味がある」、「ある程度興味がある」と答えた人に聞きました。  
（回答者239人／対象者240人）



【問39】地産地消の推進には、どのような取組が有効だと思いますか。（複数回答可）



【問40】食の安全・安心の確保に関する取り組みの充実のために、ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

<p>消費生活について改めて考えさせられる思いです。便利さに慣らされて淡々と過ごしてきたように考えさせられます。食品ロスも世の中に食べることに大変な人達もいるし、アレルギー問題等本当に難しいです。行政も道の駅のようなところで相談、アピール等を一般の人達が話しやすい場所、コミュニケーションをとって頂けたらいいと思います。</p>	<p>(70歳以上・女性)</p>
<p>例えば玉葱、玉を大きくする肥料を使えば大きい物ができる。大きい物がよいというイメージで消費する。でも有機栽培した物はそこまで大きくなる。きれいな小松菜、水耕栽培すると土はつかないしきれいになっている。土がついた小松菜は付け根をきれいに水を洗って使わないといけない。尾頭付きの魚、すぐ焼いたり煮たりできるようにカットされてパックに入っている。若い女子は尾頭付きの一匹の魚を見て目を見て気持ち悪いという。太陽や自然のもとで大きく育ったものが嫌われスーパーには尾頭付きの魚がなくなっている。そこら辺りの事は、もっと知らせなくていいのかな。今回動物愛護と一緒にアンケートだったから特に感じました。犬や猫はぬいぐるみじゃないし、食べ物だって姿形はあるのだから、そこらがわからぬまま幼児期を過ごした人達が魚の目をみて怖いと逃げていくのでは。</p>	<p>(70歳以上・男性)</p>

<p>エシカル消費行動の基本には賛成です。しかしまだまだ住民ひとりひとりにはいられていない。(新しい消費行動)の内味を項目ごとによくかみ砕いて説明、アピールする必要性あり。例えば「フェアトレードバナナ」コンビニでいてあるところもあるがむしろ知られていない方が多い。巨大な流通機構の末端に組み込まれている消費者は、まさに目を塞がれた消費者。お金を持っている人が恩恵に浴する構造だ。これを改善しなければ。</p>	(70歳以上・女性)
<p>行政は農薬や添加物と健康に関する情報を消費者に伝え、正しい知識をもった消費者を育てる事も大切かと思えます。型の悪い果物、虫食い野菜、傷つき食品等が普通に並ぶお店社会になって欲しいと思えます。</p>	(70歳以上・女性)
<p>悩みを一人でかかえこまない環境作りが大事だと思います。</p>	(60歳代・女性)
<p>地産地消の推進には農業生産者と消費者とのつながりを重要にして、どのような肥料を使用して育てたかを見学したり、安心して山梨での作物を消費できればと思います。スーパーを通してツアーを開催して頂ければ参加したいと思います。</p>	(70歳以上・女性)
<p>地産地消について、地域の農家からの生産物を気軽に。例えば農協等を通じて定期的に各地域(朝市など)で直販するような態勢がとれば消費者は興味があると思えます。</p>	(70歳以上・男性)
<p>道の駅へよく買い物に行きます。野菜等みずみずしく新鮮で安心して食べられます。農業大学の学生さんらによる直売会が防災会館の前で行われているのをテレビのニュースで見かけます。もう少し回数を増やして頂きたいと思っています。</p>	(70歳以上・女性)
<p>特に輸入商品の肥料とか消毒薬とか清潔さが気になります。中国製品は安いので買いたいと思うのですがなかなか買うところまでの勇気がありません。(特にうなぎ、落花生)</p>	(70歳以上・女性)
<p>私は農業していて野菜もできる限り自給していますので食品についての安全性についてあまり心配していることはありません。現在の日本では食糧を輸入に依存しています。このアンケートとは直接関係ありませんが鳥獣害により耕作を諦めている農家(会社等を退職後耕作をしたいと思っている人含む)が多くあります。鳥獣害の問題が解決すれば直売所等への出荷も多くなり地産地消も増加できると思えます。安全安心で新鮮な農産物の供給も増加すると思えます。</p>	(60歳代・男性)
<p>何時も安全で美味しい食品を食べたい。宜しく願いいたします。</p>	(70歳以上・男性)
<p>生産者の顔を見える地産地消には問39の質問事項をすべてこまめに丁寧にしてもらいたい。</p>	(60歳代・男性)
<p>日本の農薬使用は外国に比べ高いという報道があります。農薬は食品添加物が適切に使用されているかは見た目では分からず専門的な知識をもつ方々が行政の中でチェックを厳しく行っていただきたいと思えます。</p>	(70歳以上・女性)
<p>公共施設に行く機会が現在あまりないのでスーパーなどに情報をするものがあると嬉しいです。</p>	(30歳代・女性)

食品の製造・加工には興味があっても食品添加物や食品表示に興味のない人が多い気がする。妊婦検診や乳児検診の時に資料を渡してもいいと思います。	(40歳代・女性)
地産地消は近くのスーパーなので余り商品も数は多くなく種類も多くないので消費者の目に留まらない。売り場所(置く場所の工夫も必要と思います)なるべく地元の野菜を買う努力はしているつもりです。	(70歳以上・女性)
県や市町村など公共の協力を得て、地元産の新鮮な農産物などの直売所を開設して、規格外の品物など家使用に安く提供したり、情報交換をしたりして生産者も消費者もお互いにメリットが得られるようなことが実現できればよいと思います。	(70歳以上・女性)
関係ないとは思いますが、ウインナーやベーコンなどの加工食品はどうしてあんなにたくさんの添加物が必要なのでしょうか。消費者の大半が色や形にこだわっているのでしょうか。もっと安心な加工食品ができるといいです。	(50歳代・女性)
山梨県の地産地消の取り組みはよいと思います。農産物直売所も多く手に入りやすい。駅前、県庁前、武田神社等観光客の多い場所で季節の果実、野菜販売所等があるとよいと思います。女性客なら絶対買いたいお土産です。	(70歳代・女性)
地産地消の商品は特に食品添加物、残留農薬、遺伝子組み換えでない食品等、力を入れて取り組んでほしいと思います。	(60歳代・女性)
地域のスーパーなどにも積極的に地産地消の取り組みとするよう指導してほしい。 山梨県の地域の特産品をもっと広く知らしめてほしい	(60歳代・女性)
地産地消と簡単に言うが、現状難しい。 県をあげて農家のサポートをする必要性があるのではどこに行けば地産地消のものが手に入るのか大々的に周知させるべき	(20歳代・男性)
食品に生産地を目立つように書いたらよいと思います。特に中国産は買わないようにしています。	(60歳代・女性)
収穫体験など子供が出来ることもありありがたいです。給食で地産産を積極的に取り入れてほしいです。他県のものも、体感させてあげたいです	(40歳代・女性)
店内展示のために農産物の企画をあまりにも厳しくするのは、かえって問題が出る。多少の規格外でも価値があると消費者啓蒙が必要。賞味期限経過でも即危険ではないことを周知させるべき。	(70歳以上・男性)
生産者の取り組みをSNSで発信する	(60歳代・男性)
輸入食品は政府も現地での安全性を確認をして欲しい。	(60歳代・男性)
食の安全、安心は必要だがあまりにも拘り過ぎるのも問題があると思う	(50歳代・男性)
食品の表示基準を分かりやすくするとともに、変更のお知らせをCMやお店にポスター等で情報提供して頂きたい。	(50歳代・男性)

行政による農業法人の設立等農業従事者の収入が安定し若者が安心して取り組める仕組みを作ってほしい。会社員より農業従事者の年収が上回るような仕組みを作らないと、輸入に依存した形の継続になり残留農薬等安心、安全は確保できないと思います。	(50歳代・男性)
子育ての観点からの食の安全・安心について知りたいと思います。	(40歳代・女性)
安全性について考えている親と考えてない親の幅が両極端だと思う。生活水準はそれぞれ違うが、攻めて子供達には安全な物を食べさせてほしい。‘良い物は少し高い’のは理由があり仕方ないということ消費側も理解を深める方が良いと思う。	(40歳代・女性)
生産者側も残留農薬、正味期限など注意をしていますがもう少し公的な場所があると良いと思います。	(50歳代・男性)
特に中国の農産物に不信感を拭えない。	(50歳代・男性)
特にありません。	(60歳代・男性)
地産地消はあくまでも最終目標として、まずは県外・地域外の方に食品を手にとってもらった際に、生産者及び産地などをアピールすることが大切だと思います。どこにどんな食べ物があるのかきちんと紐づけることが「食の安全・安心の確保」への第一歩だと思います。	(20歳代・男性)
少々高くても安心安全な食品を購入したい。包装の裏を確認して原材料等を確認するが添加物等の成分は体のどこに悪影響かがわからないので知る機関が身近にあると良いと思う。	(50歳代・女性)
食は「文化」です。行政は、安全性向上、安全の検証・問題解決を通じて山梨の食文化向上を目指してもらいたい。前問にもあるように、生産者と行政、消費者が連携して食文化を高める「祭り」を企画してもらいたいが。山梨の物産展、食の博覧会開催等々。	(70歳以上・男性)
地産地消もよいけど遠くの名産もふるさと納税を利用して試していきたい。	(60歳代・女性)
スーパーマーケットにもっと地元の野菜・果物などを置いたらどうでしょうか。規格外などでも安価であれば売れると思います。	(50歳代・女性)
山梨県には他県に誇れる多くの野菜や果物があるのだから、広報に力を入れて県内外に良さを伝えるべきではないと思います。	(20歳代・女性)
小学生の農業体験、食品工場等の職場体験により理解を深める。又学校給食で農産物等地域の食材を使用する。生産者が学校の授業で体験談を話してもらい、地域のつながりを深めたら良いと思います。	(60歳代・男性)
卸売り業者倉庫や食肉工場等への、抜き打ちでの監査を季節の替わり目、災害発生時等、実施して頂きたいです。	(50歳代・男性)
安全なもの、有機栽培、特別栽培、抗生物質を使用しないお肉等、スーパーにも置かれているので多少値段が高くなるのを理解して、結果的にそれを選ぶ方がいいと思うので、沢山の人が意識して選ぶようにしていかないといけないと思います。危険な添加物が多すぎます。	(40歳代・女性)